

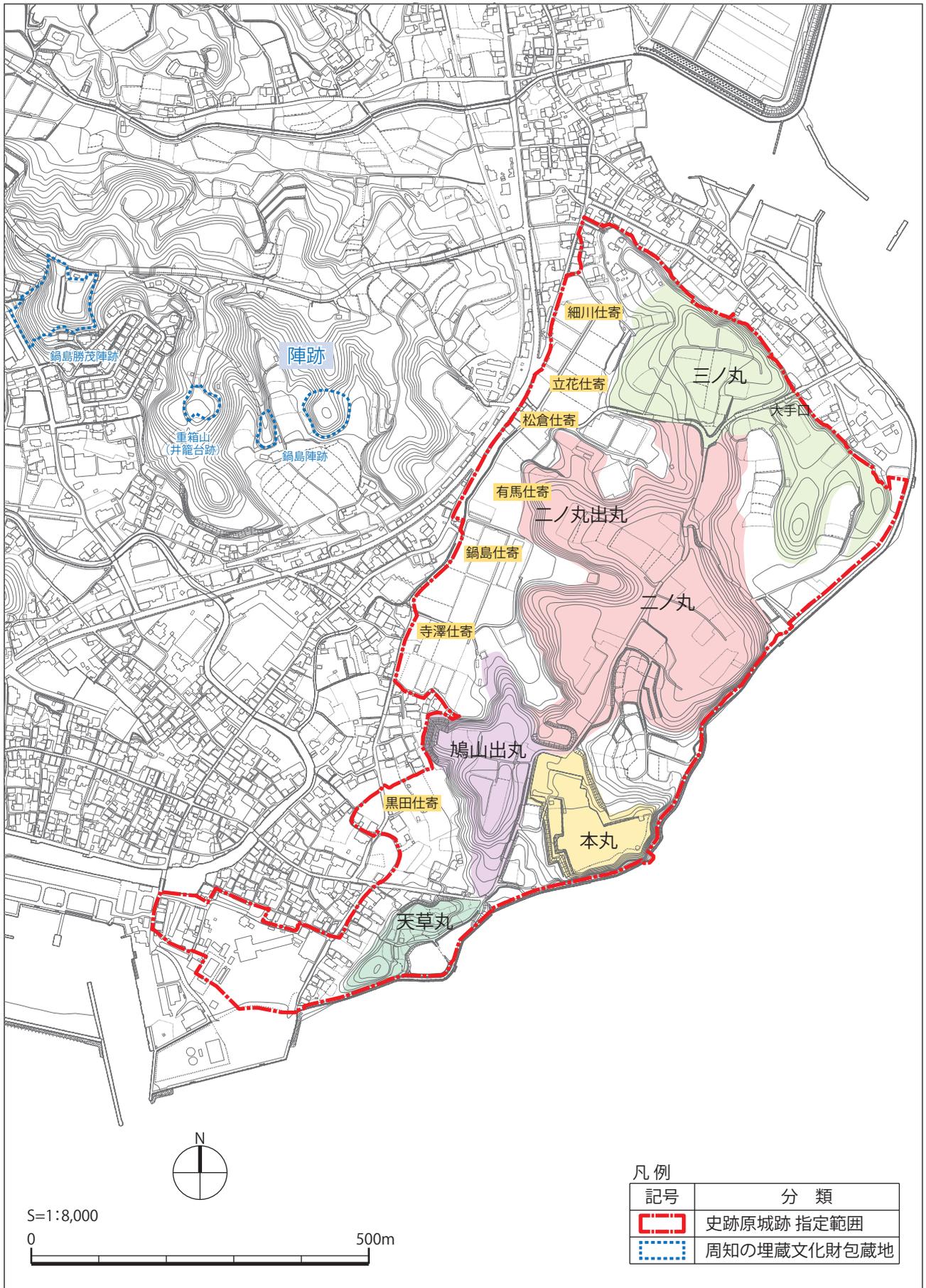
第3章 史跡原城跡の概要および現状と課題

第1節 史跡指定の状況

原城跡は、昭和11年に当時の南有馬町が史蹟の指定申請を文部省に提出し、地名に本丸、二ノ丸、三ノ丸、天草丸、出丸などの名を残し、城跡には板倉重昌碑、佐分利九ノ丞の墓、骨カミ地蔵、慶安元年建立の供養碑があるなど、旧態を偲ぶに足るものとして昭和13年5月30日、文化財保護法の前身である史蹟名勝天然記念物保存法に拠って、「史蹟原城址」として国史跡の指定を受けた。

種別	史跡
名称	原城跡
所在地	長崎県南島原市南有馬町大江名、浦田名（指定時は南高来郡南有馬町）
指定年月日	昭和13年5月30日（官報第3419号／文部省告示226号）
指定面積	486,300.41㎡ （令和3年4月1日現在、面積は地籍調査後の数値、指定時面積は411,960.43㎡である。）
指定基準	二. 都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡
指定理由	島原半島ノ南部ニアリ明應年間有馬氏初メテ城ヲ此地ニ築キタリシガ元和二年松倉重政島原ニ治スルニ及ビ廢城トナリ城壁ノ石材ハ取除カレタリ寛永十四年十二月島原・天草ノ切支丹宗徒等益田時定ヲ將トシテ此ニ據レリ幕府ハ初メ征討使トシテ板倉重昌ヲ遣ハシシガ次デ松平信綱ヲ遣ハスニ及ビ重昌翌年正月急ニ城ヲ攻メテ戰死シ信綱更ニ諸藩ノ兵ヲ率ヒテ之ヲ攻メ二月遂ニ落城セリ城址ハ既ニ山林田畑ニ化セルモ猶本丸二ノ丸三ノ丸天草丸出丸等ノ名ヲ存シ板倉重昌ノ碑佐分利氏ノ墓、骨カミ地蔵及慶安元年建立ノ供養碑等アリテ舊態ヲ偲ブニ足レリ
管理団体	南島原市 昭和13年7月21日指定（指定時は南有馬町）
指定地番	

地名		地域	
長崎県南高来郡南有馬町	浦田名	字南三ノ丸	字南三ノ丸全部
		字北三ノ丸	一番ノ第一、一番ノ二、二番、自三番ノ一至三番ノ四、四番ノ一、四番ノ二、五番、五番ノ一浅間神社境内、自六番至八番、九番ノ一、九番ノ二、一〇番ノイ、一〇番ノロ、一一番ノ一、一一番ノ二、自一二番至二一番、又ノ一三番、一九番ノ第一、二二番ノ一、二二番ノ二、自二三番至二六番、二七番ノ第一、二七番ノ第二、自二八番至三四番、二九番ノ二、三五番ノ第一、三五番ノ第二、自三六番至四四番、四五番ノ一、四五番ノ二、四六番
		字駒崎	自一五九番至一六一番、一六三番
	大江名	—	字三ノ丸、二ノ丸、桐ノ木谷、東二ノ丸、厩、西二ノ丸、厩平、鳩山出丸、打越、蓮池、本丸、明神及天草丸全部
		字三崎	一番第一、二番第一、自三番至八番、九番ノ一、九番ノ三、一〇番、一一番ノ二、自一二番至二三番
		字出丸	自九七番至九九番、九七番ノ第一、一〇〇番イ、一〇〇番ロ、自一〇一番至一〇四番、一〇五番イ、一〇五番ロ、自一〇六番至一〇八番、一〇九番ノ第一、一一一番ノ第二、一一一番ノ第二、一一二番ノ第一、自一一三番至一一九番、一二〇番イ、一二〇番ロ、一二一番イ、一二一番ロ第一、一二一番ロ第二、一二二番、一二三番イ、一二三番ロ、自一二四番至一二八番、一二六番第一、一二九番イ、一二九番ロ、一三〇番第一、一三〇番第二
		字先釜蓋	三一二番、三一三番第一、三一三番第二、自三一四番至三二二番、三二八番、三二九番イ、三二九番ロ、自三三〇番至三三二番
字釜蓋	自三四二番至三四六番、三四七番イ、三四七番ロ、自三四八番至三五六番、三五七番イ一、三五七番イ二、三五七番ロ、三五八番、三五九番		
字中島	自四六八番至四八四番		
字茶白山	八五六番イ、八五六番ロ、八五七番、又八五七番		



凡例

記号	分類
	史跡原城跡 指定範囲
	周知の埋蔵文化財包蔵地

図 3-1 史跡指定範囲図 ※『史跡原城跡 保存活用計画』(令和 3 年 3 月) より引用・加筆

第2節 原城跡の概要

1) 原城跡の概要

原城跡は、肥前有馬氏によって戦国時代に築かれた城郭であり、寛永14年(1637)に勃発した島原・天草一揆の舞台ともなった城跡である。

城は、有明海に突き出した台地上に築かれた平山城で、本丸、二ノ丸、三ノ丸、鳩山出丸、天草丸などの曲輪から構成される。外周は約4kmで、東と南は有明海、西と北は低湿地にほぼ囲まれた天然の要害であった。

本丸は、豊臣秀吉の時代の石積み技術が用いられた石垣で囲まれ、出入口は枡形となっている。また高石垣や瓦葺の建物、礎石建物などの近世城郭の特徴を持つ。一方で二ノ丸、三ノ丸等の他の曲輪は自然の地形を活かした土造りである。

原城は慶長4年(1599)から慶長9年(1604)に築かれたとするイエズス会宣教師の報告書があるが、本丸の近世的な城郭への改修を指す内容と考えられる。報告書によれば、文禄・慶長の役の後、有馬晴信が居住していた日野江城よりも一層適地にして、堅固に防御できるような新しい城を築城中であるとされ、城内に晴信の屋敷のほか、家臣の屋敷、弾薬や食糧を備えた三層の櫓があったと記されている。慶長19年(1614)に晴信の子である直純は日向国(宮崎県延岡市)に転封となり、代わって領主となった松倉氏が島原城を築き居城を移したため、原城は一国一城令によって廃城となった。

その後、領民に対する過剰な課税や強制的な労働、キリスト教の徹底的な弾圧、飢饉が原因となり、寛永14年(1637)に島原・天草一揆が起こった。その際、一揆勢は廃城となっていた原城に籠城し、これを鎮圧しようとする幕府軍は、原城の西に広がる丘陵などに陣を構えた。この際、原城と幕府軍の陣の間に広がる低地一帯には、各藩の軍勢が仕寄場を構え、湿地の埋立や築山、井楼、道造りを進めるなど、戦いの最前線となった。寛永15年(1638)、一揆は鎮圧され、原城が再び一揆の拠点として利用されることを防ぐため、徹底的に破壊された。

島原・天草一揆を描いた絵図は多く残されており、その中には当時の城道を表示したものもみられる。複数の絵図における原城の城道を見比べると、細部の表現に差異はあるが、概ね以下の点が共通項として認められる。なお、ここでは『肥前国高来郡有馬浦原城攻図』(大垣市立図書館所蔵)、『天草之図』(名古屋市蓬左文庫所蔵)、『原城攻撃図』(東京国立博物館所蔵)を参考とした。

- ・三ノ丸東部に大手を設け、構造は内

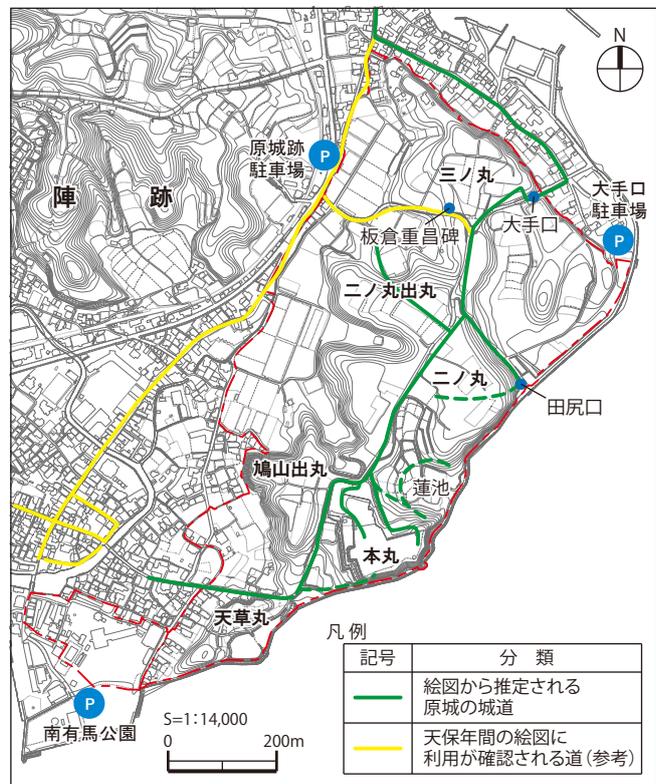


図3-2 絵図から推定される原城の城道

枡形虎口である。

- ・大手からの城道は二ノ丸を經由し、本丸に至り、さらに天草丸方面に抜ける。
- ・大手からの城道が分岐し、二ノ丸北東の田尻口方面に向かう道が認められる。

以上の特徴を現在の地形図上に表現すると、図 3-2 のようになり、往時の城道と、現在の市道の重なりが多いことが判る。

なお天保 7 年（1836）の『古戦古城之図』（国立公文書館内閣文庫所蔵）を見ると、現在の国道 251 号から板倉重昌碑を結ぶ市道と同じ路線の道が描かれており、史跡内の道の利用形態は、江戸時代後期頃には既に成立していたと認められる。

平成 4 年（1992）から本丸を中心に実施した発掘調査では、多くの遺構や遺物が出土した。破却によって埋め尽くされた枡形の出入口や櫓台石垣、本丸正門などの検出は、築城時の遺構と同時に、島原・天草一揆に対する幕府の戦後処理としての対応を明らかとした。また、十字架、メダイ、ロザリオの珠などの島原・天草一揆にまつわるキリシタン関係遺物の出土は、籠城したキリシタンの信仰を如実に示すこととなった。

原城跡は、昭和 13 年（1938）5 月 30 日に「原城址」として国指定史跡となり、平成 30 年（2018）7 月 4 日には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録された。

2) 原城跡の本質的価値

史跡の本質的価値とは、史跡自体が有している多様な価値の中で、史跡指定に値すると評価される価値である。保存活用計画では原城跡の本質的価値を、①有馬氏時代に築かれた城郭としての価値、②島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値の 2 点に整理している。また、史跡外ではあるものの、原城跡の本質的価値と関わりの深い要素として、陣場・陣跡を併記している（図 3-3）。

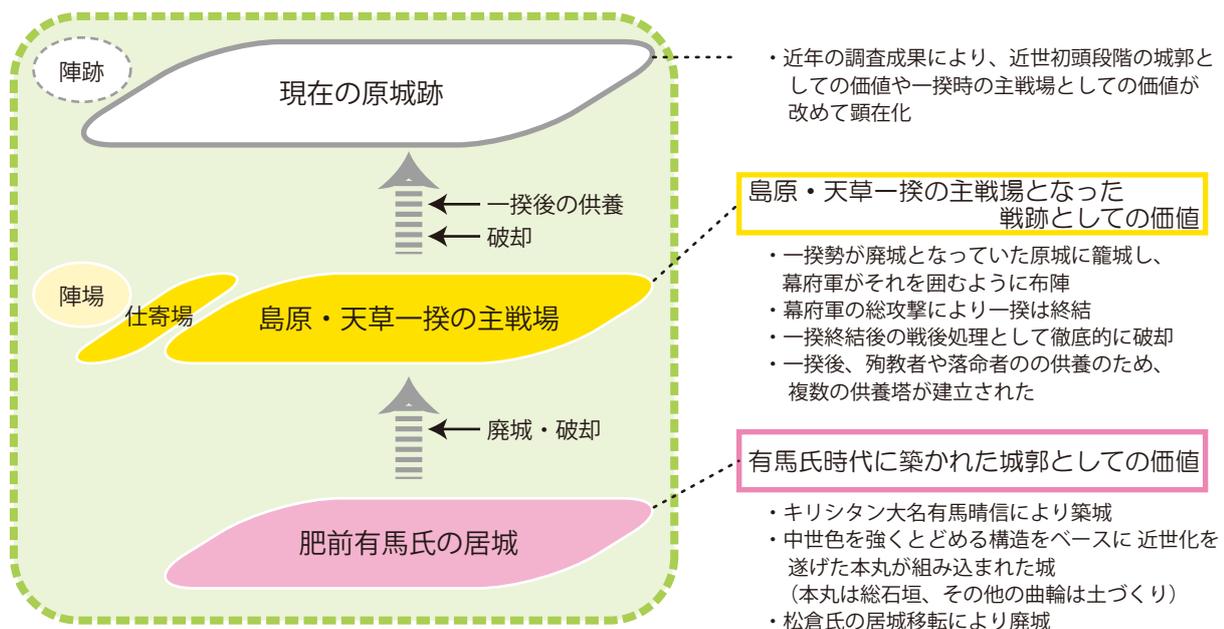


図 3-3 原城跡の本質的価値の概念図 ※『史跡原城跡 保存活用計画』（令和 3 年 3 月）より引用

原城跡の本質的価値を構成する要素は、有馬氏時代や一揆時、一揆後の遺構・遺物などが指定範囲内外の広大な範囲に存在している。特に本丸やその周辺には、調査によって石垣や建物跡などの築城時から一揆後の破却までの様々な遺構などを確認しており、その一部を整備することで遺構を保存し、当時の状況を来訪者に伝える手段としている。また本丸以外についても、土塁や自然地形等で曲輪の状況が確認でき、一部では調査によって遺構等が存在することを確認している（表 3-1、表 3-2、図 3-4～8）。

表3-1 原城跡の本質的価値と構成要素の概要

本質的価値	構成要素	構成要素の概要
①有馬氏時代に築かれた城郭としての価値 ②島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値	本丸	<p>本丸は原城の主郭であり、城の南東側に位置する。原城において唯一、近世城郭の特徴を備えた曲輪であり、石垣、直線的な墨線、枡形の出入口、門跡とそれに伴う礎石、櫓台、隅櫓、多門櫓、瓦葺建物の存在を裏付ける大量の瓦などを確認している。織豊系城郭の影響がみられる構造であり、出土陶磁器の年代やイエズス会の記録などから、慶長四年(1599)～同九年(1604)に有馬晴信の治世下で築かれたと考えられる曲輪である。</p> <p>島原・天草一揆の際にも有馬氏時代に築かれた石垣が残るなど、堅固な防御機能を有し、絵図史料からは天草四郎時貞など一揆の指導者層などが立て籠もっていた様子がうかがえる。</p> <p>発掘調査では、一揆後に幕府軍が現地処理として行った石垣の徹底破壊や、人骨、キリシタンの信心具の出土なども確認している。</p> <p>原城跡の中で土地の公有化、発掘調査、整備が最も進捗し、城郭の価値および一揆の主戦場としての価値が顕在化している地区である。</p>
	二ノ丸	<p>二ノ丸は城の中央付近に位置し、原城の中で最も広大な曲輪である。中世城郭の様相が色濃く、土造りで自然地形に沿った墨線を持つ。</p> <p>有馬氏時代には家臣等の屋敷があったと記録があり、また島原・天草一揆を描いた絵図からは、高い塀や一揆勢が駐屯するための小屋が建てられていたこと、二ノ丸の北東には田尻口が設けられ、曲輪の北側にも門があった様子がうかがえる。</p> <p>平成30年度に発掘調査に着手し、遺構等の確認を進めている。</p>
	二ノ丸出丸	<p>二ノ丸出丸は、二ノ丸の西側に突き出した略方形の曲輪である。幕府方の軍勢が築いた陣に最も近く、一揆勢の最前線をなしていた。</p> <p>島原・天草一揆を描いた絵図からは、曲輪周囲を塀によって守備していた様子や多くの小屋が建てられた様子が伺え、中には曲輪の突端に土俵を高く積んだ表現のものもある。</p> <p>一揆勢が二ノ丸出丸から幕府軍に夜襲をかけたとの記録があり、また一揆最終局面の幕府軍による総攻撃では、鍋島軍の突入によって戦端が開かれた場所である。両勢の戦闘の激しさを伝えるうえで重要な位置にある曲輪である。</p> <p>平成30年度に発掘調査に着手し、遺構等の確認を進めている。</p>
	三ノ丸	<p>三ノ丸は、城の北側を占める広大な曲輪である。曲輪の東側には大手を構えており、城のエントランスにあたる区域である。二ノ丸同様に、土造りで中世城郭の様相があるが、大手の出入口は内枡形虎口であったことが絵図等から判っており、本丸のような織豊系城郭の影響が三ノ丸においても部分的に認められる。</p> <p>一揆の際には二ノ丸同様、塀で守備され、多くの小屋が建てられていた。</p> <p>大手口など一部で発掘調査を実施しているが、全体として遺構等の確認は進んでいない。</p>

本質的価値		構成要素	構成要素の概要
①有馬氏時代に築かれた城郭としての価値	②島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値	鳩山出丸	<p>鳩山出丸は、城域の南側にあり、本丸の西に近接して配置された曲輪である。本丸の出丸としての機能を持っていたと考えられる。やはり土造りの曲輪で中世城郭の様相を持ち、一揆の際には塀で守備され小屋が建てられていた。</p> <p>鳩山出丸のうち本丸寄りの区域には、馬場があったとされ、天草丸に接する付近には田町門があったと推定されている。</p> <p>発掘調査は実施しておらず、遺構等の確認は進んでいない。</p>
		天草丸	<p>天草丸は、城域の南端に配置されており、鳩山出丸と同様に本丸の出丸としての機能が考えられる曲輪である。やはり土造りの曲輪で中世城郭の様相を持つ。他の曲輪群ほどの広大さは無く、細長い形状の曲輪である。曲輪の南方には堀切が設けられ、一揆を描いた絵図には曲輪の突端に土俵を積んだ表現のものもある。</p> <p>一揆の際に、天草の一揆勢が守備したことから、天草丸と呼ばれている。</p> <p>発掘調査は実施しておらず、遺構等の確認は進んでいない。</p>
		仕寄場	<p>仕寄場とする区域は、主に原城の城域を構成する台地西側の低地などである。現在は陸化しているが、元々は南西側から海水が入り込み、「塩濱」などと表現される湿地帯であった。このほか浅間神社がある史跡北端の高台を含む。</p> <p>島原・天草一揆の際には、細川、立花、松倉、有馬、鍋島、寺澤、黒田など各藩の仕寄場が設けられ、柵や竹束、井楼などの施設が所狭しに構築された。原城に最接近する井楼への通路は、柵をジグザクに並べた表現の絵図もあり、一揆勢の迎撃に対して細心の注意を払いながら進軍する緊迫した様子がうかがえる。</p> <p>島原・天草一揆における幕府軍の最前線であり、一揆の歴史的な意義や、戦闘の様子を伝えるうえで非常に重要な地区である。現在は田畑となった土地を徐々に公有化している状況である。</p> <p>発掘調査は未実施であり、遺構等の確認は進んでいない。</p>
		陣跡 (指定地外)	<p>陣跡は、原城跡の西方に広がる丘陵地などの一部である。島原・天草一揆の際、諸藩の軍勢が、原城を攻囲するために陣を構えた。</p> <p>一揆を描いた絵図と現在の地形を対比すると、一部改変された地域もあるが、全体的に当時の地形が良好に残存している。陣に由来する「陣場」、「上陣場」、「中陣場」、「下陣場」、「北陣場」、「一ノ陣場」、「黒田陣場」、「小笠原陣場」、「築山」、「西築山」、「井籠臺（せいろうだい）」、「鐘懸松（かねかけまつ）」など非常に多くの地名が字名として残されている。</p> <p>有馬直純の陣跡と推定される地域で試掘調査を実施した履歴がある。それ以外の陣跡では発掘調査には及んでいないが、「松平信綱陣跡」、「鍋島陣跡」、「鍋島勝茂陣跡」、「井籠台跡」を埋蔵文化財包蔵地として登録している。公有化は実施していない。</p>
(指定地外)	その他	その他 (史跡周辺の要素)	<p>原城跡の南西側の大江地区や北側の浦田地区は、戦国時代には集落が形成されており、地区内の民家には、天文2年(1533)銘の「阿弥陀如来来迎図」自然石板碑が残っている。また、イエズス会が残した記録にこの地区に関連する出来事が記されている。</p> <p>絵図では、浦田地区からは大手門、大江地区からは田町門を經由して本丸までのルートが形成されている。</p> <p>原城跡からは、城の立地などを把握するための海に開けた眺望や島原・天草一揆の際の陣跡を眺めることができる。</p> <p>原城跡の来訪者が利用できる駐車場や遊歩道などが史跡隣接地に整備されている。</p>
		有馬キリシタン 遺産記念館	世界遺産登録に合わせて、市の文化センターを改修して、原城跡、日野江城跡のガイダンス施設として公開している。

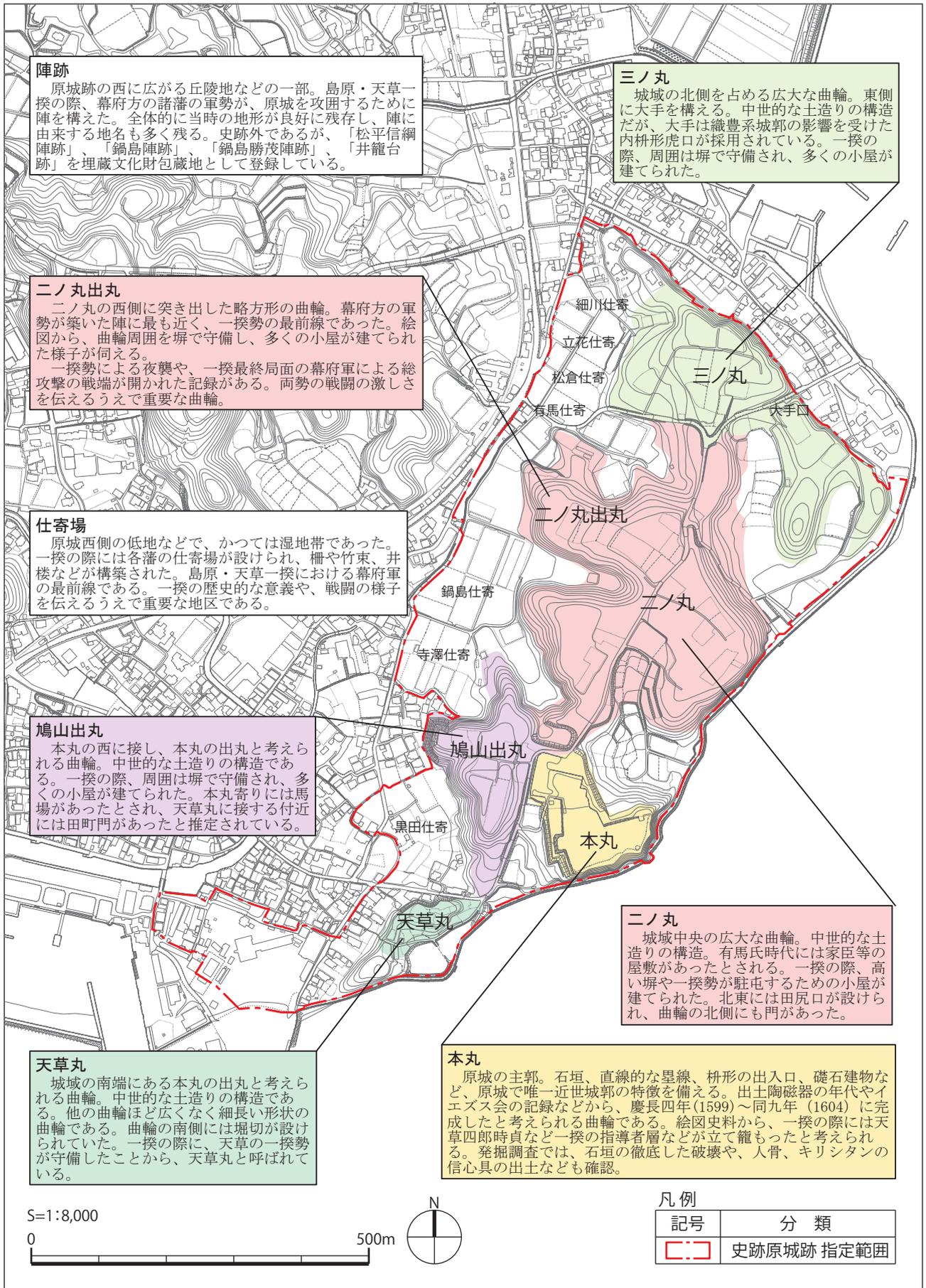


図 3-4 原城跡における曲輪等の概要

表3-2 原城跡の構成要素の整理表

史跡内の要素		史跡周辺の要素
史跡の本質的価値を構成する諸要素	① 有馬氏時代に築かれた城郭としての価値	史跡の本質（築城時期）に関わりの深い要素
	有馬氏時代の遺構・遺物	有馬氏時代の登城道など
	＜本丸＞ 曲輪、石垣、櫓台、外柵形虎口、本丸正門、埋門、本丸門、池尻門、抜け穴跡 ＜本丸周辺＞ 田町門、内馬場 ＜二ノ丸および周辺＞ 曲輪および曲輪周囲の崖面・斜面、出丸、空堀、蓮池、蓮池門、田尻門、土橋 ＜三ノ丸および周辺＞ 曲輪および曲輪周囲の崖面・斜面、土塁、堀切、大手口、大手門 ＜天草丸・鳩山出丸および周辺＞ 曲輪および曲輪周囲の崖面・斜面、堀切、水の手 ＜その他＞ 原城跡出土遺物（陶磁器・瓦など）、地下に埋蔵されている遺構・遺物	原城跡への登城道、町屋跡、殿様道 原城跡からの景観 海に開けた眺望など
	② 島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値	史跡の本質（一揆時）に関わりの深い要素
	一揆時の遺構・遺物等	一揆時の陣跡推定地など
	堅穴建物跡、建物跡、堅穴遺構、土坑、仕寄場（黒田・寺澤・鍋島・有馬・松倉・立花・細川）、甬道跡、戦闘時の進入口、茶臼山、大江の浜 原城跡出土遺物（メダイ・十字架・ロザリオ珠などのキリシタン関連遺物、銃弾、砲弾など） 原城跡出土人骨 地下に埋蔵されている遺構	陣跡、仕寄場、オランダ石火矢台、築山、鐘懸松跡、井楼台 原城跡からの景観 陣跡方面への景観など
	一揆後の戦後処理を示す遺構等	
本丸の破却された石垣、埋め尽くされた出入口（本丸正門、埋門、本丸門、池尻門）、破却された大手口		
一揆後の供養に関する石碑等		
鈴木重成建立供養碑（1648）、骨カミ地藏（1766）、佐分利九ノ丞の碑（1786）、板倉重昌碑（1681制作/1798建立）		
史跡内の要素		史跡周辺の要素
史跡の本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	史跡の保存・管理・活用に有効な諸要素	史跡の保存・管理・活用に有効な諸要素
	解説のための施設および工作物など	解説のための施設
	総合案内所、遺構等解説サイン、VR など	有馬キリシタン遺産記念館
	便益施設	便益施設
	道標、マナーサイン、ベンチ、トイレ、広場（田尻口）、東屋など	駐車場（大手口・国道沿い）、アコウ街道（遊歩道）など
	管理施設	
	道路、柵、外灯、電線、水道、側溝など	
	その他の諸要素	その他の諸要素
	原城跡に先行する時代の埋蔵文化財	原城跡をとりまく景観
	築山遺跡（縄文時代）、浦田観音東側遺跡（弥生時代）	史跡周辺からの原城跡に対する景観・眺望など
神社・石碑・石造物など		
浅間神社、八幡神社、金毘羅神社、キリシタン墓碑、天草四郎の墓、天草四郎像、顕彰碑など		
その他		
農地、宅地、学校、十字架モニュメント、地形・地質、森林など		

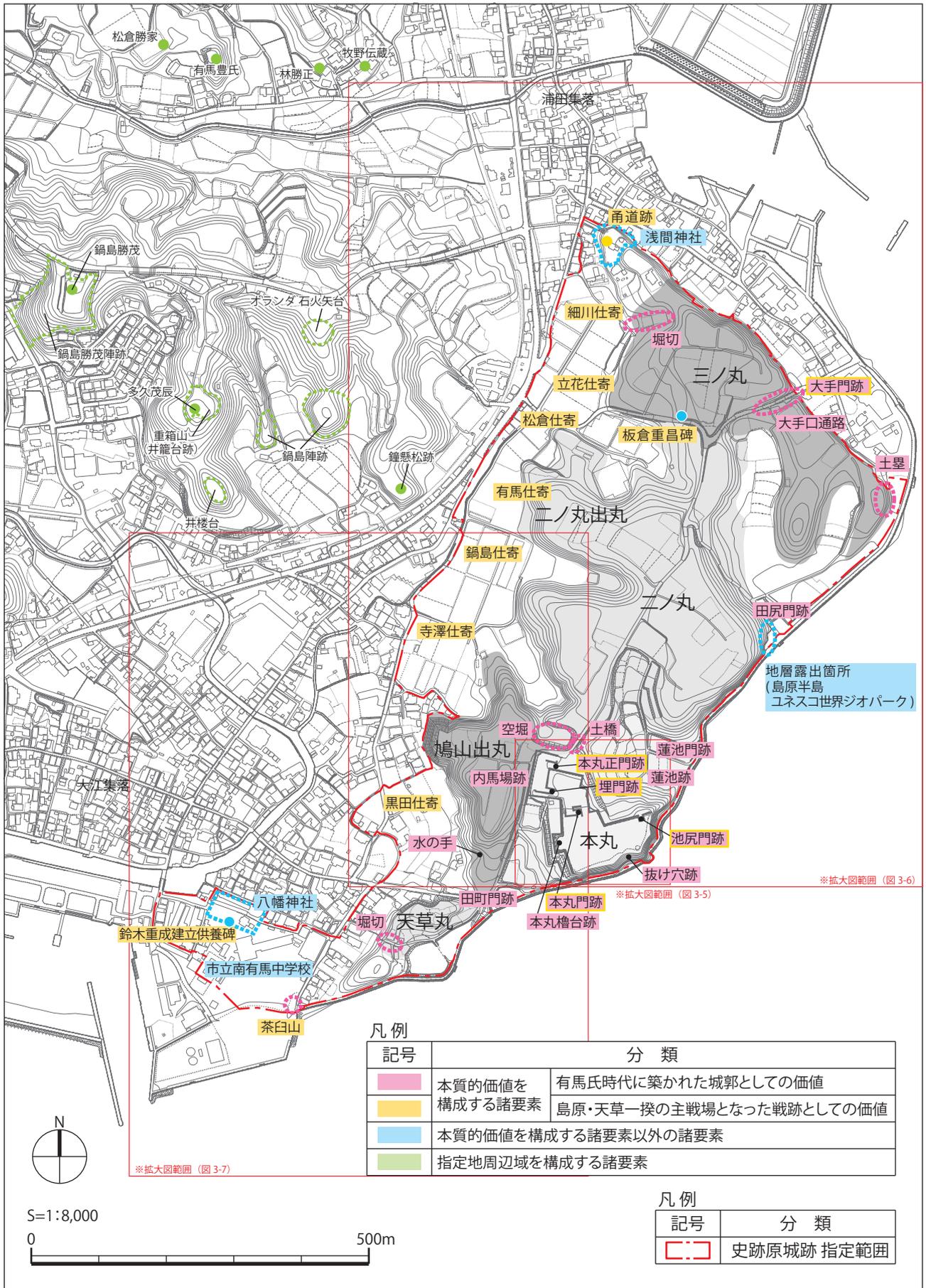


図 3-5 原城跡の構成要素位置図 (指定範囲付近)

※『史跡原城跡 保存活用計画』(令和 3 年 3 月) より引用・加筆

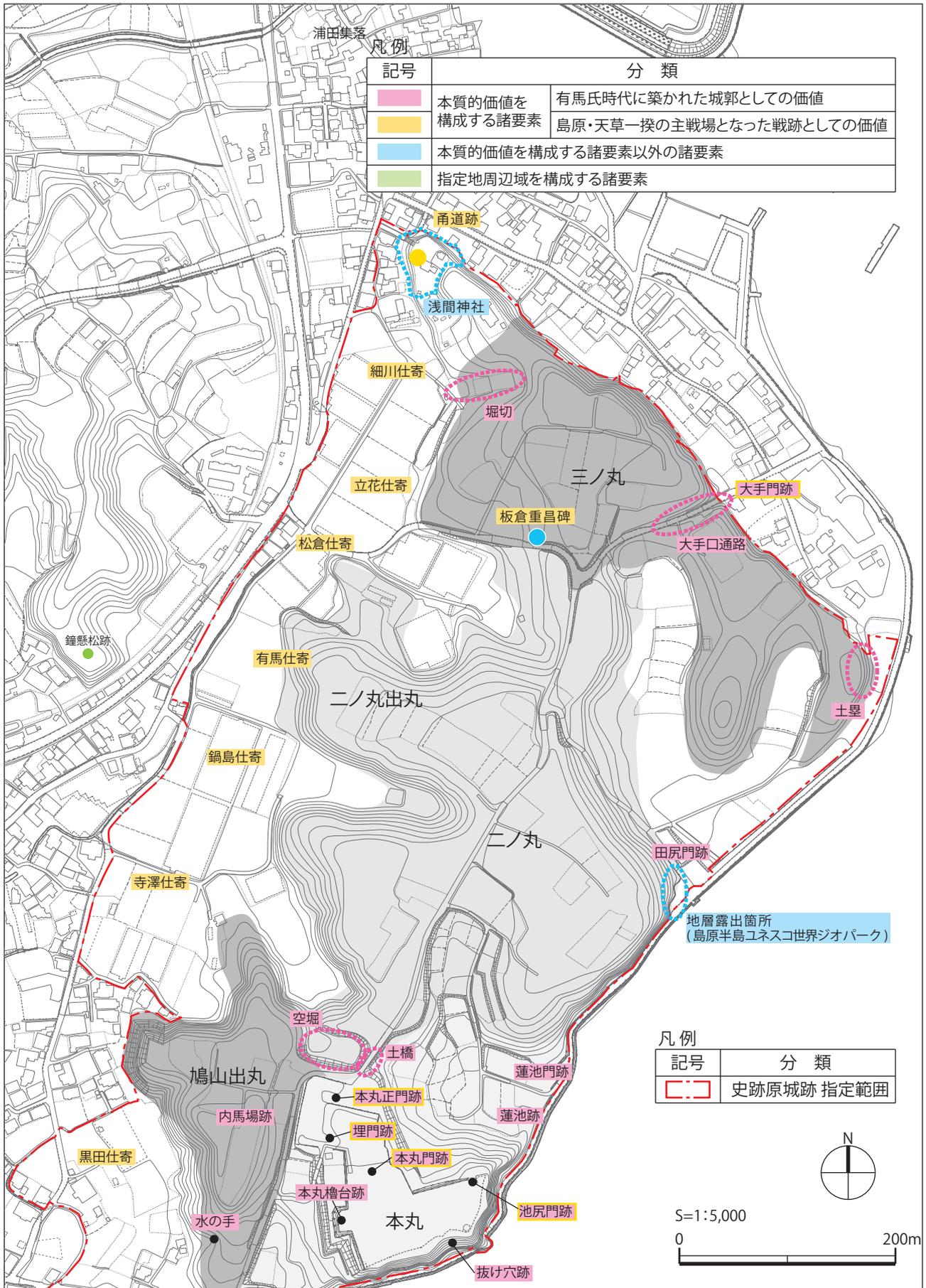


図 3-7 原城跡の構成要素位置図 (二ノ丸・三ノ丸付近)



図 3-8 原城跡の構成要素位置図（鳩山出丸・天草丸付近）

第3節 原城跡の整備実績と活用等の経過

1) 原城跡の整備実績

原城跡では、平成4年(1992)から発掘調査を行っており、本丸の発掘調査では、想定を大きく超えた石垣などの遺構を検出したが、島原・天草一揆後の徹底的な破却によって構造物としての安定性を著しく欠く状態であった。そのため、平成8年度から20年度の整備では、石垣をはじめとした検出遺構の緊急対応的な保全措置を中心に実施した。また、発掘調査で検出した人骨や破却の堆積状況の現地での型取りおよびレプリカ作成等の整備事業も行った。

その後、平成22年度に『史跡原城跡 整備基本計画書』を策定したうえで、主に本丸を中心に整備事業を実施してきており、その実績を以下に示す。

①保存のための整備実績

a) 遺構保存 (図3-9)

原城跡の遺構保存に関する整備については、これまでに石垣の保存修理工事、門跡の整備工事を実施している。

地上表出した遺構の保存整備については、本丸内において、石垣を安定化させるため石垣裾側への保護盛土工、石垣下方へのフトン籠工、天端側への植生土のうによる保護工、植生工、礎石の真砂土保護工、排水溝設置などの様々な事業を実施してきている。

地下埋蔵された遺構の保存整備の実績としては、本丸石垣14(101P 図5-4 参照)下において検出した竪穴建物跡群(128P 写真5-10 参照)の保護埋め戻し工を実施した。

その他の遺構保護のための整備として、これまでに本丸内において石垣等に影響を及ぼす恐れのある樹木の伐採・強剪定工を行っている。

b) 防災・減災・復旧のための整備に関する整備実績 (図3-10)

原城跡では、防災・減災のための整備や災害などのき損箇所の復旧のための整備を実施している。

防災・減災のための整備としては、海側の崖面に対する崩落防止対策のためのかご枠工およびPCコンクリート板設置工事による防災工事を行った。また、本丸内において樹木の伐採・強剪定工を行った。

復旧のための整備として、ジオファイバー工、土のう積工によるき損箇所の復旧工事を史跡内の複数箇所で行った。

その他の防災対策として、地形の保全に影響を及ぼしたり、繁茂して台風の際に倒れたりする可能性のある樹木の伐採・強剪定を随時実施してきた。

c) 雨水排水整備 (図3-9)

雨水排水整備については、本丸において、平成10年度に石垣保護工の一環として、石垣4と石垣18の天端側に排水溝を設置した。

②価値を伝えるための整備実績

a) 遺構の表現に関わる整備実績

原城跡における遺構表現のための整備は、これまでは本丸でのみ行っており、その内容は築石石材の移設工、出土人骨や破却堆積の型取りおよびレプリカの作成、後世に積まれた石垣の除去、門跡の遺構保護および表示整備である（図 3-11）。なお作成したレプリカについては、有馬キリシタン遺産記念館にて屋内展示を行っている。

b) 案内・解説施設の整備実績

原城跡内においては、これまでに発掘調査成果等に基づき、史跡内を中心に、曲輪の解説、遺構の解説、誘導、マナー喚起など、様々な遺構解説サイン、名称サイン、道標、マナー・誘導サインの設置を行った（図 3-12）。また、原城の破却の工程を解説するために、埋門において表示整備を実施している。

③動線に関する整備実績

原城跡の動線については、本丸内において発掘調査や遺構保護工事に伴い既設アスファルト道路を撤去し、砕石敷きに転換して本来の動線に近づけた実績や、池尻門跡に来訪者が歩いて通行できる木製階段を設置した実績がある。

表3-3 原城跡の整備実績（表中の括弧番号は図3-9～12、写真3-1～25に対応する）

年度	区分	位置	整備の内容	番号
平成4年(1992)	-	本丸	発掘調査開始	-
平成8年(1996)	石垣保護	本丸	石垣4裾側の保護盛土工および仮歩道設置	(1)
	石垣保護	本丸	石垣7裾側の保護盛土工	(2)
	石垣保護	本丸	石垣18裾側の保護盛土工およびフトン籠工	(3)
平成9年(1997)	石垣保護	本丸	石垣16・17裾側の保護盛土工およびフトン籠工	(4)
平成10年(1998)	石垣保護	本丸	石垣4・18天端側の植生土のうによる保護工ならびに排水溝設置	(5)
	石垣保護	本丸	石垣7・8・9裾側の保護盛土工	(6)
平成11年(1999)	石垣保護	本丸	石垣4・18天端側の側溝蓋設置	(7)
平成12年(2000)	石垣保護	本丸	石垣14天端側の植生土のうによる保護工	(8)
	造成・動線	本丸	既設アスファルト道路撤去および砕石敷き工	(9)
	遺構表現	本丸	調査検出による築石石材の移設工(本丸地区内での移設)	(10)
平成13年(2001)	石垣保護	本丸	石垣14裾側の保護盛土工、フトン籠工および植生工	(11)
平成14年(2002)	石垣保護	本丸	本丸門跡虎口石垣天端側の植生土のう工および保護盛土工	(12)
	石垣保護	本丸	本丸門跡内部の真砂土保護工	(13)
	遺構保護	本丸	竪穴建物跡群保護埋め戻し工	(14)
平成15年(2003)	遺構表現	本丸	本丸正門跡出土人骨型取	(15)
平成16年(2004)	石垣保護	本丸	櫓台石垣隅角上部に積まれた後世石垣の除去	(16)

年度	区分	位置	整備の内容	番号
平成16年(2004)	遺構表現	本丸	本丸正門跡城郭破却堆積の型取りおよびレプリカ作成	(17)
平成17年(2005)	遺構保護	本丸	本丸正門跡内部の真砂土保護工	(18)
	石垣保護	本丸	櫓台石垣隅角に積まれた後世石垣の除去	(19)
	遺構表現	本丸	本丸正門跡出土人骨型取およびレプリカ作成	(20)
平成18年(2006)	石垣表現	本丸	本丸櫓台石垣上部(北西隅角除く)保護盛土工、土のう積工および植生工	(21)
	遺構表現	本丸	本丸正門跡出土人骨型取およびレプリカ作成	(22)
平成19年(2007)	遺構表現	本丸	本丸正門跡出土人骨型取およびレプリカ作成	(23)
平成20年(2008)	石垣表現	本丸	本丸櫓台石垣上部(北西隅角)保護盛土工、土のう積工および植生工	(24)
	動線	本丸	池尻門跡 木製階段設置	(25)
平成24年(2012)	遺構表現	本丸	調査検出による築石石材の移設工(本丸地区内での移設)	(26)
平成25年(2013)	崩落等対策	本丸	東側崖面裾(A工区)崩落防止対策に係るかご枠工	(27)
平成26年(2014)	崩落等対策	本丸	南側崖面裾(B工区)崩落防止対策に係るかご枠工	(28)
	遺構の防災	本丸	郭、石垣の保存に影響を及ぼす恐れのある樹木の伐木および強剪定工	(29)
	遺構表現	本丸	本丸正門跡・本丸門跡透水性真砂土舗装による遺構保護および表示整備	(30)
	遺構表現	本丸	埋門跡破却工程の三段階表示整備	(31)
平成28年(2016)	崩落等対策	本丸	南側崖面裾(B-2工区)崩落防止対策に係るPCコンクリート板設置工事	(32)
平成29年(2017)	崩落等対策	本丸	南側崖面裾(B-3工区)崩落防止対策に係るかご枠工およびPCコンクリート板設置工事	(33)
	案内・解説施設	史跡内および周辺	遺構解説サインや誘導サインの設置	(34)
平成30年(2018)				
令和元年(2019)	崩落等対策	本丸	南側崖面裾(B-4工区)崩落防止対策に係るPCコンクリート板設置工事	(35)
令和2年(2020)	崩落等対策	二ノ丸	出丸、二ノ丸(1工区)法面復旧工事(ジオファイバー工)	(36)
	災害復旧	二ノ丸	桐ノ木谷法面復旧工事(土のう積工)	(37)
	災害復旧	二ノ丸	二ノ丸法面復旧工事(土のう積工)	(38)
	災害復旧	二ノ丸	二ノ丸法面復旧工事(土のう積工)	(39)
	災害復旧	三ノ丸	北三ノ丸法面復旧工事(土のう積工)	(40)
	災害復旧	三ノ丸	三ノ丸法面復旧工事(土のう積工)	(41)
	災害復旧	鳩山出丸	打越法面復旧工事(土のう積工)	(42)
令和3年(2021)	崩落等対策	三ノ丸	北三ノ丸(4工区)法面復旧工事(ジオファイバー工および石積工)	(43)
	崩落等対策	三ノ丸	北三ノ丸(3-2工区)法面復旧工事(ジオファイバー工)	(44)

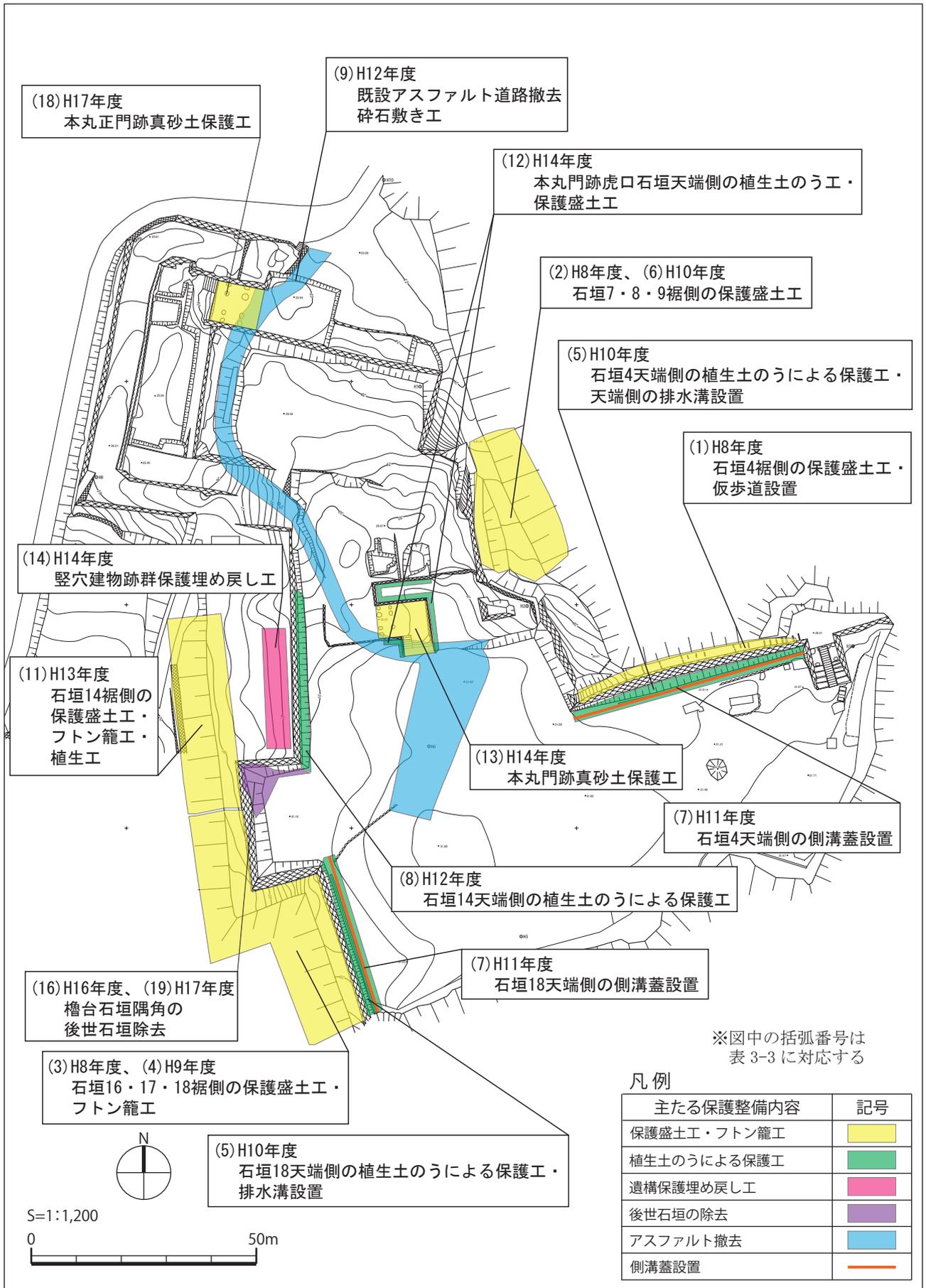


図 3-9 原城跡本丸における保存のための整備実績位置図

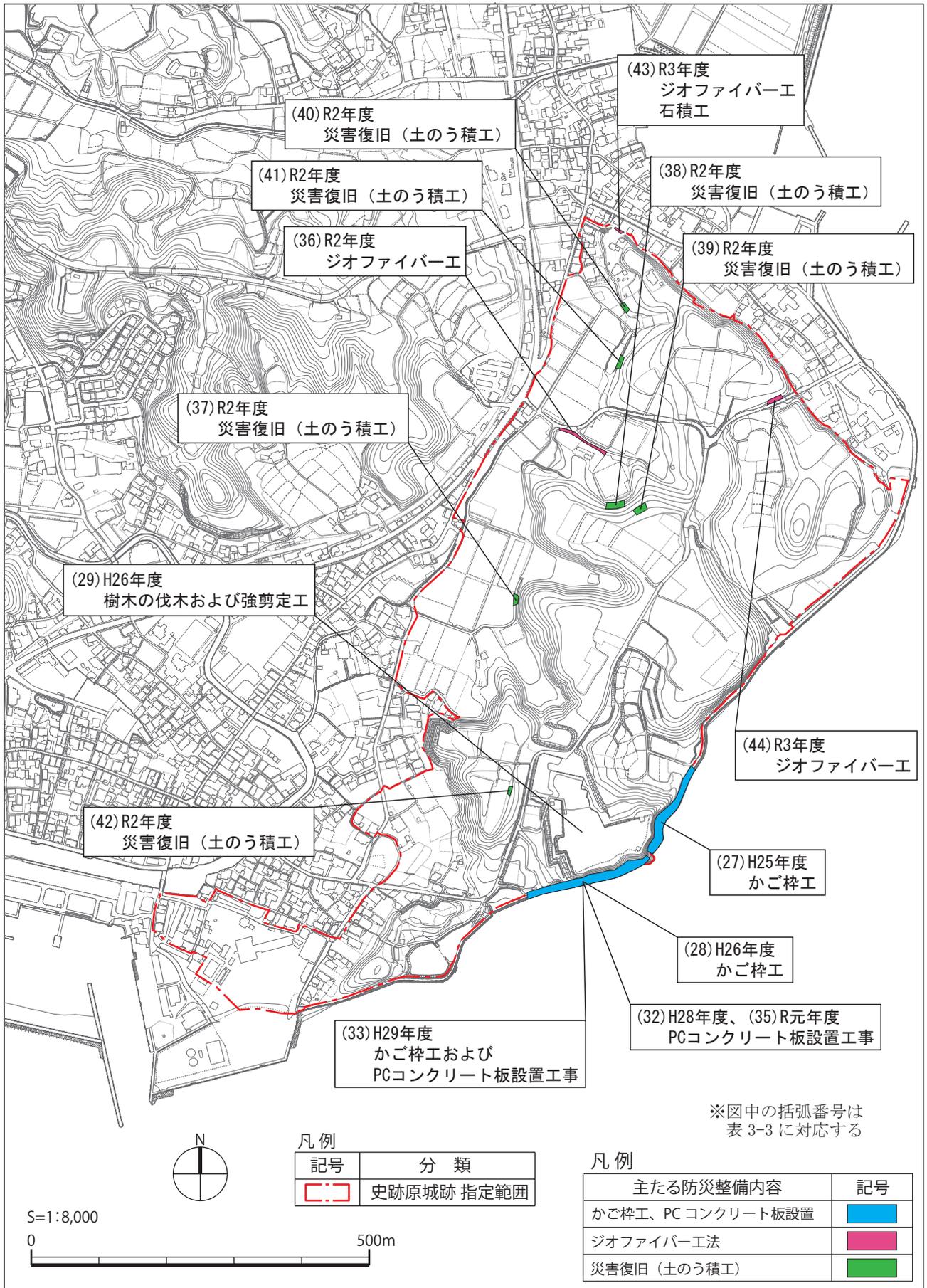


図 3-10 原城跡における防災・復旧のための整備実績位置図

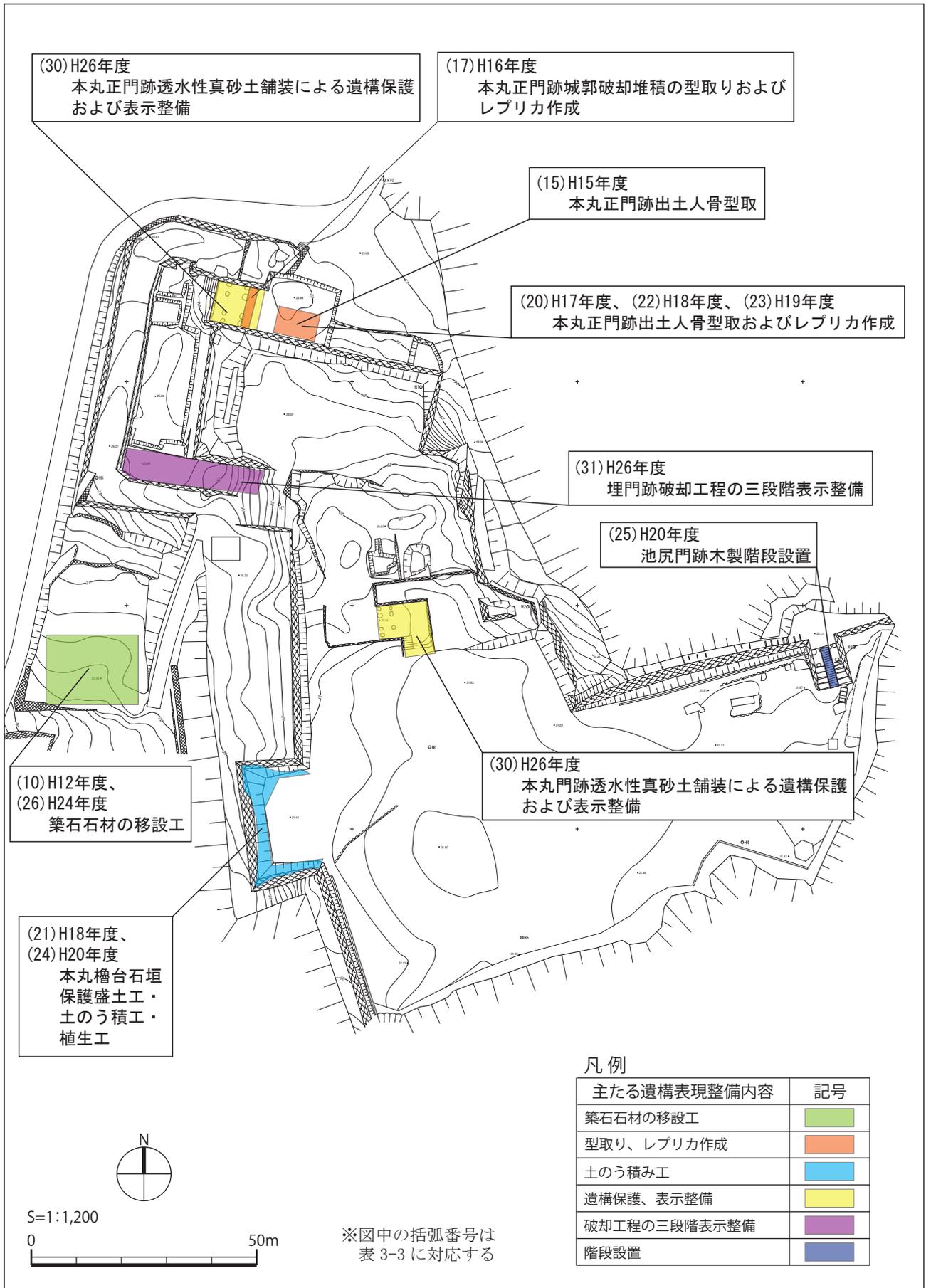


図 3-11 原城跡本丸における遺構表現の整備実績位置図

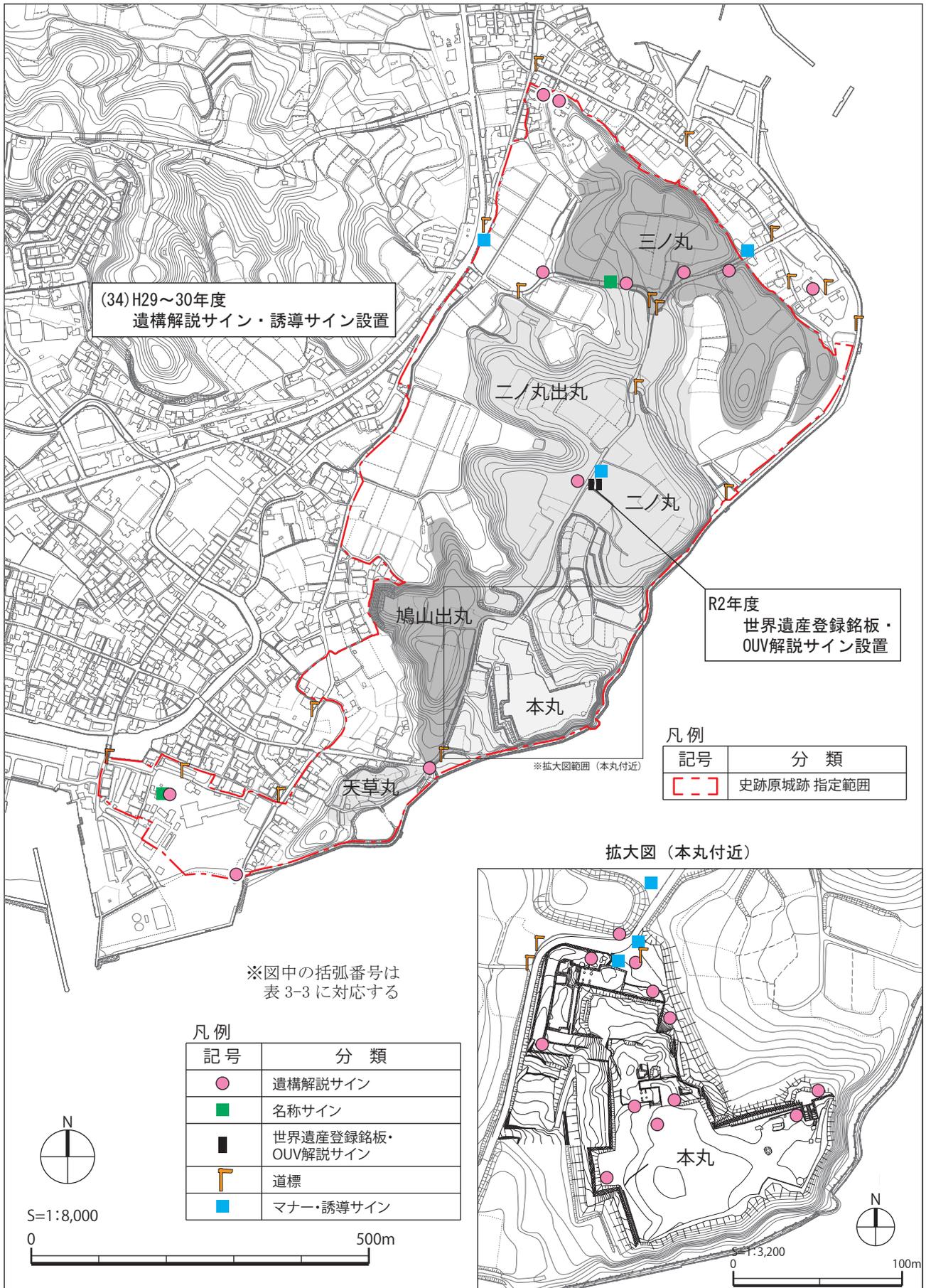


図 3-12 原城跡における現状の案内解説等の整備実績位置図



写真 3-1 (1) 石垣 4 裾側保護盛土工・仮歩道設置



写真 3-2 (2) 石垣 7 裾側保護盛土工



写真 3-3 (3) 石垣 18 裾側保護盛土工・フトン籠工



写真 3-4 (5) 石垣 18 天端側植生土のう保護工・排水溝設置



写真 3-5 (8) 石垣 14 天端側植生土のうによる保護工



写真 3-6 (9) 既設アスファルト道路撤去・砕石敷き工



写真 3-7 (11) 石垣 14 裾側保護盛土工・フトン籠工・植生工



写真 3-8 (13) 本丸門跡内部真砂土保護工